

材の利用面から見た本県の広葉樹林

広葉樹の利用についてみますと、以前から薪炭用やシイタケ原木用、あるいは一部家具用として利用されてきましたが、もっぱら針葉樹に比べ低質材というレッテルのもとで利用があまり進まなかったと言ってよいでしょう。

しかし、最近になって、広葉樹材の木目の美しさ、感触の良さ、色のすばらしさ、強度性能が優れていることなどの特長が好まれ、内装材や家具及び小物、フローリング等工芸品にまで利用されるようになってきましたが、広葉樹の資源量となり

ますと心細いのが実情です。そこで、少ない林分調査例ではありますが、本県内の広葉樹林の樹種構成、利用径級に達した木の占める割合等用材の資源的な面から調査をしましたので、ここに報告します。

調査林分の概要

調査した林分数は12林分ですが、県内各地から選り出した林分で、表-1に示したように林齢は23～90年、胸高直径は10～32cmの範囲にあり、ha当り幹材積は97～366m³、標高は540～1520mの

表-1 広葉樹林分の概要

林分数	林 齢	上層木平均		ha 当り		利用径級木の占める割合	樹種の等種類	標 高
		胸高直径	樹 高	本 数	幹 材 積			
12	23～90年	10～32cm	10～16m	900～2450本	97～366m ³	9～83%	2～24	540～1520m

注) 利用径級木とは胸高直径18cm以上の木

範囲にある林分でした。

林齢的に見ますと40年生以下の比較的若い林が約7割を占め、そのため製材が可能な大きさ(胸高直径18cm以上のもの)の木の占める割合は、材積割合で81%以上が4林分で、残りの林分は20～60%しかなく、利用径級木の少ない林分がほとんどでした。(図-1)

利用径級木の多い林分

次に、利用径級に達した木の多い林分とはどのような林分についてみますと、図-2に示したように、まず、当然のことながら、胸高直径が大きいこと、ha当り幹材積の大きいこと、林齢も高齢であることがあげられます。さらに、ha当りの本数は少ないこと、標高もできるだけ低いことがよいようです。

したがって、針葉樹林にも要求されているところですが、広葉樹林でも材の利用を考えるならば、間伐を積極的に実行することが大切となります。

広葉樹林内の樹種構成

広葉樹林内にはいろいろな樹種が分布し、一つの林分を構成していますが、樹種の種類数についてみますと、最も少ない林分でわずか2種類、最も多い林分で24種類で、12林分の平均では12.2種類でした。このように、広葉樹林は多くの樹種によって構成されているわけですが、これもその

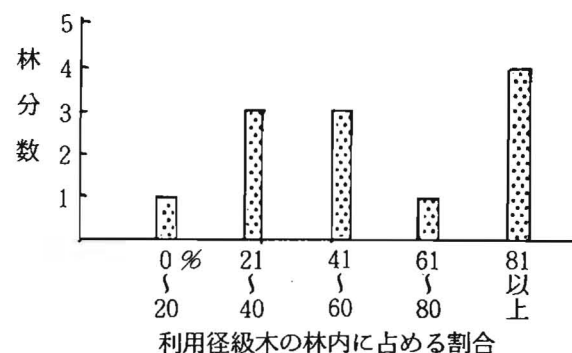


図-1 利用径級木(胸高直径18cm以上)の林内に占める割合と林分数の関係

表-2 樹種別の出現林分数（12林分中）

樹種名	林分数	備考	樹種名	林分数
ミズナラ	9	ナラ類	センノキ	1
コナラ	5		サワシバ	1
シラカンバ	3	カンバ類	クワノミズキ	1
ミズメ	3		アオハダ	1
クリ	3		ソヨゴ	1
シナノキ	3	サクラ類	ハンノキ	1
オオヤマザクラ	3		エゾイタヤ	1
カスミザクラ	2		オニグルミ	1
ミヤマザクラ	2		アオダモ	1
ウワミズザクラ	2		ミズキ	1
イタヤカエデ	3	カエデ類	キハダ	1
ウリハダカエデ	2		コシアブラ	1
ブナ	1		ニセアカシア	1
ケヤキ	1		サワグルミ	1

生育する地域によっても変化するようで、とくに標高が高くなるほど種類数も少なくなるような結果が得られました。これは、高い標高での環境に適応する樹種に限られることを示しています。

広葉樹林内にみられる主な樹種

広葉樹林内にみられる樹種のうち、幹材積の多い順に各林分から5種を選び、樹種別に林分数をとりまとめ、どんな樹種が出現頻度が高いかについて検討してみました。（表-2）

これによりますと、ミズナラが12林分中9林分にみられ最も出現頻度は高く、次にコナラの5林分に、あとは、シラカンバやミズメ等のカンバ類や、オオヤマザクラ、カスミザクラ、ミヤマザクラ、ウワミズザクラ等のサクラ類、イタヤカエデやウリハダカエデのカエデ類、さらに、クリやシナノキなどが主なものでした。その他、ブナ、センノキ、サワグルミ、ミズキ等1つの林分にしか出現しなかったものが16種ありました。

このように、ナラ類、カンバ類、サクラ類、カエデ類といった建築用内装材や家具用材に今日利用されている樹種の出現割合が大きかったこと、および、クリやブナ、ケヤキ、キハダ等用途の広

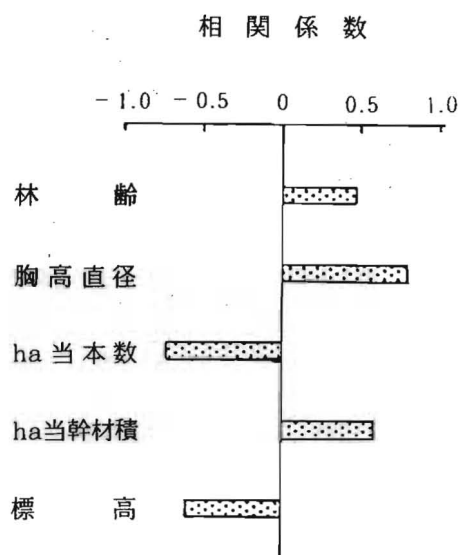


図-2 利用径級木（胸高直径18cm以上）の林内に占める割合と各要因との相関係数

い樹種や、伝統工芸品として使われているシナノキ、ミズキ、アオハダなどの出現も興味深いものと思われます。その他の樹種についても、今後の利用開発を積極的に進め用途拡大をはかっていきたいと考えております。

（林産部 武井）